

地域との新たなつながり方 「コロナ禍の地域公益活動としての一歩」

▼社会福祉法人青芳会 特別養護老人ホーム今井苑

社会福祉法人は「地域における公益的な取組（以下、地域公益活動）」が、社会福祉法第24条第2項で責務として定められています。しかし、コロナ禍でその地域公益活動の内容も変化しています。

今号では、新型コロナの感染拡大を受け、継続可能な活動に切り替えた施設の事例を紹介します。

◆施設の中から施設の外へ

青梅市にある特別養護老人ホーム今井苑では、コロナ禍前は、施設や近隣の市民センターで地域公益活動を行っていました。例えば、とろみ食やさざみ食などの試食会や感染症対策講座、防災訓練等といった体験型のプログラムです。また、施設として自治会に加入しており、地域の資源回収活動に参加するなど、地域と関係性を築いています。

しかし、新型コロナの感染が拡大する中で、これまで行ってきた地域公益活動は軒並み中止せざるを得ませんでした。

活動停止から半年が経とうとする頃、「このまま何もしないのではなく、やれることからやろう」との意見が施設の中であがりました。

そのような中、「青梅の玄関口である近くの青梅インター付近にゴミがたくさん落ちていて」との声が聞かれました。副施設長の岸田全史さんは「特養の地域公益活動という『介護に関する』ことというのが頭にあった。しかし、コロナ禍で施設内へ人を呼べない中、まずは初歩的な活動として地域に出て清掃活動を行ってみよう、との話になった」と振り返ります。「施設の中で人が集まる取組み」から「施設の外に出て行く取組み」へ視点を変えたのです。

◆清掃活動を2年以上続け、社会福祉法人のイメージアップへ

清掃活動の目的や期待は3つあります。継続的な清掃活動を行うことでゴミを捨てにくい環境をつくること、清掃活動の賛同者が増えること、高齢者福祉業界のイメージアップに

つながることです。

2020年12月から活動を始め、月に1回、1時間行っています。40分ほどのルートを2〜3設定し、月ごとに順番にまわっています。

今井苑の職員は、中心となって活動する職員3名のほか、栄養士や事務職、介護職員などが職種を超えて参加しています。無理なく参加できるように、シフトや本来の業務に影響がない範囲で調整しています。

また、実施にあたっては、青梅市社協を通じてボランティアを募集しました。すると、地域の方が1人、大学生が3人集まりました。毎回5〜6人、お揃いのビブスを着てゴミ拾いを行っています。

岸田さんと共に、中心的に活動しているケアマネジャーの石岡康宏さんは「世間から見ると、社会福祉法人は何をやっている団体か分かりにくいと思う。ビブスを着て、良い意味で目立つ活動をすることで、福祉業界は地域に貢献する活動も行っていることを知ってほしいというねらいもある」と話します。

活動を続ける中で目に見えて綺麗になっていくことや、その結果、ゴミが捨てられにくくなったことが、モチベーションとなりました。清掃活動を行った場所が綺麗になると、ゴミが落ちている他の場所を市のリサ



清掃活動を行っているメンバー



ゴミ拾いの様子

揃いのビブスの後ろには今井苑の文字とロゴが書かれています

イクル清掃課に問い合わせしました。雑草でゴミが見えづらい場所を連絡して刈ってもらおう等、市役所とも連携しています。また、青梅インター付

(※)長寿会…青海市内各地区の高齢者が自主的に組織した団体(高齢者クラブ)のこと。本文の長寿会は今井長寿会を指す。

福祉のできごと

2022.9.26 - 10.25

※対象期間外のできごとを掲載させていただく場合もあります

10 / 14

pick up

障害者総合支援法の一部を改正する法律法案が閣議決定

政府は、障害者総合支援法改正案を閣議決定した。障害者等の地域生活や就労の支援の強化等により、障害者等の希望する生活の実現を改正の趣旨としている。改正案には、障害者が希望する仕事に就けるよう支援機関が適正評価を行う「就労選択支援」や一人暮らしを望む人への支援体制整備、基幹相談支援センターを市町村の努力義務とする内容などが盛り込まれている。

10 / 14

新たな「自殺総合対策大綱」が決定

政府は、自殺対策の指針として新たな「自殺総合対策大綱～誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指して～」を閣議決定した。見直し後の大綱では「子ども・若者の自殺対策の更なる推進・強化」、「女性に対する支援の強化」、「地域自殺対策の取組強化」、「新型コロナウイルス感染症拡大の影響を踏まえた対策の推進など、総合的な自殺対策の更なる推進・強化」を掲げ、今後5年間で取り組むべき施策として新たに位置づけている。

【関連サイト】

厚生労働省 Web サイト「まもろうよこころ」

自殺対策に関する、電話や SNS の相談窓口などを分かりやすく紹介。

<https://www.mhlw.go.jp/mamorouyokokoro/>



10 / 18

日本語指導が必要な児童生徒は 5万8,307人

文部科学省は、「日本語指導が必要な児童生徒の受入れ状況等に関する調査(令和3年度)」の結果を公表。日本語指導が必要な児童生徒は、日本国籍1万688人、外国籍は4万7,619人の計5万8,307人で、前回調査の平成30年度より7,181人増加している。今回初めて特別支援学級における日本語指導が必要な児童生徒数について調査された。



特別養護老人ホーム今井苑
(右から) 副施設長 岸田全史さん
ケアマネジャー 石岡康宏さん

近の長寿会(※)の花壇がコロナ禍により、管理が行き届かないこともあり、清掃活動の合間にその手入れも可能な限り実施しました。
現在まで2年ほど活動を続けたこ

◆清掃活動から生まれた新たなつながりの可能性

これまで地域公益活動として行っていた介護座談会等では、今井苑は「先生役」となることが多くありました。しかし、清掃活動ではボランティアで参加する市民と同じ目的を持って活動することで、対等な関係で接することができました。

岸田さんは「参加している大学生は福祉系の学部ではなく、清掃活動

とで、青梅市より「環境衛生・美化優良団体」として感謝状が贈呈されました。施設内でも活動が定着しています。

のボランティアに興味があつて来られた。これまでは福祉に興味がある人や携わっている人しか関わることがなかったが、今回の活動を通じて新たな交流の入口が築けた」と話します。

石岡さんは「この活動を通して、ゴミ拾いや清掃などの『場』をボランティアに提供できたことが貢献の一つなのかなと思った」と話します。

今後、コロナ禍が落ち着いた時には、今井苑の行事に参加したいという大学生の声も聞かれています。また、自治会や市内の法人にも声をかけ、この清掃活動を広げていくことも考えています。

居住支援法人～入居時支援～

高齢等を理由に住まい探しにお困りの方の入居をサポートしています

こうした支援を行う法人があります！



お部屋探し



家賃債務保証の情報提供
緊急連絡先の提供



契約手続きのサポート



連載計6回

【法人一覧】 【活動内容】

8月号	住宅セーフティネット制度の概要
9月号	居住支援法人の概要
10月号	セーフティネット住宅の物件紹介
11月号	居住支援法人の入居時支援
12月号	居住支援法人の入居中・退去時支援
1月号	居住支援協議会の活動

東京都 住宅政策本部 民間住宅部
安心居住推進課 住宅セーフティネット担当
電話 03-5388-3320

広告欄